

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>1 個々の生徒の能力、適性、興味、関心や進路希望に応じた主体的な学習を促し、きめこまかな指導の実践により、生徒の進路希望の実現を図る。</p> <p>2 基本的生活習慣を身につけ、自らを大切にし他人を思いやる心をもつ生徒を育てる。</p> <p>3 教職員、生徒が希望、情熱、愛情、信頼をもって一体となる、特色ある、活力にあふれる学校づくりを進め、保護者、地域から信頼を得る。</p> <p>4 学校評価、教職員評価システムによって、自己点検、評価を行い、教育活動の改善を目指す。</p>	<p>1 学習習慣を身に付けるための、学習環境の整備は進み、「学習強化週間」の取り組みも一定の成果が見られた。「にしおつスタディカップ」や「国際交流活動」は学習意欲の向上に成果があったが、コースにあった教科指導や基礎学力の定着を図るために、様々な授業の工夫が更に必要である。自主的な学習時間の増加に繋がる取組や自習室の活用に課題が残った。</p> <p>2 規範意識の向上と道徳心の育成については、全教職員が取り組み、一定の成果が見られた。また、スマートフォン等の使用、交通安全、環境美化等に関する指導に課題が残った。今後も、教職員が一丸となった持続的で粘り強い指導が肝要である。</p> <p>3 進路指導については、学年部と進路指導部、各教科との連携が図られ、個々の生徒に対して丁寧な指導を最後まで行った。</p> <p>4 広報活動については、説明会の対象や時期、申込方法等の工夫や、ホームページの更新、広報誌の定期的な発行と中学校訪問を通して、本校の教育活動を外部へ発信することができた。今後も、地域の中学校を中心に連携を深め、学校に対する信頼を高める取り組みが必要である。</p>	<p>1 主体的な学びを目指して、学力の向上と夢実現</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業を通じて、生徒の学習意欲を高める。主体的な自学自習時間を増加させ、学力向上を図り、希望進路を実現させる。また、国際教育の充実による、国際感覚の充実を図る。 <p>2 豊かな人間性と規範意識の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> 充実した部活動の継続した活動により、生徒の心身の健全なる成長を図る。 生徒がけじめある学校生活を過ごすことで、規範意識の向上と公德心の育成をめざし、全教職員で一致した指導を図る。 <p>3 広報活動による情報発信の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校説明会を充実させるとともに、学校HPや「西乙だより」を通じて、中学生や保護者にタイムリーな情報提供を行い、志願者の増加を図る。

評価領域	重点目標	具体的方策（取組計画）	評価	成果と課題
組織・運営	◇分掌間・教科間の協力推進	○教職員全体が当事者意識を持ち、それぞれの領域を超える連携と調整を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌間での連携と調整がうまく図られ、全教職員で一致した運営体制が取れている。 ICTの活用等により、情報共有のさらなる円滑化を図る。
学習指導と進路指導	◇学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業を行い、生徒の学習意欲を高め、自学自習時間を増加させる。 ○「にしおつスタディカップ」や学習強化週間の取組をより充実させ、生徒の主体的な学びを喚起する。 ○土曜講習の充実、長期休業中の講習や学習合宿に積極的な参加をすすめ、学力の養成を図る。 	B	B <ul style="list-style-type: none"> 各教科で授業改善に取り組んだが、まだまだ試行錯誤段階であり、さらなる研究・改善が必要である。 学習意欲の高い生徒も増加しているが、学校全体の自学自習時間を増加させる取組がさらに必要である。 調査前の学習強化週間の取組は定着しつつある。 土曜講習、長期休業中の講習、学習合宿等に多くの生徒が参加し、意欲的に取り組んだ。 海外の高校生を全校体制で受け入れるなど、学校全体で国際交流の取組を進めた。 海外研修、短期留学プログラム、スピーチコンテスト等を実施し、本校の特色である国際教育を推進した。 進路指導部と学年部、各教科との連携により、個々の生徒の進路希望実現につながった。 図書委員会を中心に、図書館利用を促進するさまざまな取組を実施し、生徒の読書意欲の向上を図った。
	◇国際教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○国際関係者会議を中心に、学校全体としての取組をすすめる。 ○海外研修旅行を通じて、生徒の主体性を引き出し、成功させる。 ○アーリントン高校、シャコピー高校、台湾南投高校等との国際交流活動を充実させる。 	B	
	◇希望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> ○進路指導部と学年部の連携を密にし、面談を積極的に行い、進路希望に応じた指導を徹底する。 ○大学等への見学の実施をはじめ、学年の進路行事、進路HRを充実させる。 	B	
	◇図書視聴覚教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○他分掌や各教科との連携を密にし、図書室や視聴覚教室の利用を促進する。 ○新着本等の紹介やディスプレイを工夫し、生徒の読書意欲の向上と、図書委員会の活性化を図る。 	A	
生徒指導と特別活動	◇規範意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的生活習慣の確立を目指し、頭髪、服装指導等の生徒指導を全教職員で一致して行う。 ○年度当初に授業規律上の課題を把握し、有効な指導方法を検討・実施することにより、規範意識の醸成とさらに安心・安全な学校環境づくりを目指す。 <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の自律を促すことで、生徒がスマートフォン等を適正に使用できるようにする。 	B	B <ul style="list-style-type: none"> 頭髪・服装については、生徒の意識も向上し落ち着いた状況が見られるが、遅刻指導については一定の課題を残した。 授業規律上の課題調査を実施し、全教職員で課題を共有した。 一定の授業規律は保たれており、落ち着いた環境で学習が行われている。 全学年でスマートフォンの使用可能時間帯を整理し、適正な使用について啓発指導を行った。 学校行事への積極的な参加が見られるが、より生徒自身の主体的な取組となるような仕掛けや意識付けが必要である。 クラブ員集会や部代表者会議を定期的開催し、生徒の意識向上を図ったが、学校全体として活気ある集団とはなり得ていない。リーダーの育成や部活動の定着などへの対策が急務である。 日常の指導や定期的な登下校時の安全指導等により、自転車のマナーには一定の改善が見られるが、下校時のマナーには依然として課題が残る。さらに継続した啓発指導を行う。
	◇特別活動や部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○学校行事に積極的に参加し、目的意識を持った集団行動により、責任感を持たせる。 <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ○クラブ員集会や部代表者会議を定期的開催し、部活動の活性化を図り、生徒の心身の健全な成長を図る。 ○部活動や学校行事に積極的に取り組むことで、活気のある集団作りとリーダー育成を図る。 	B	
	◇交通安全指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○安全教育について、学年ごとの目標を定め指導をおこなう。地域からの信頼回復に努める。 ○地域、PTAとも連携し、定期的に登下校時の安全について啓蒙する。特に、自転車利用者の登下校時における通学安全指導を強化する。 	B	
健康安全	◇環境・美化の推進	○ゴミ分別・減量化の徹底、トイレの二足制の徹底等の環境美化活動により、学校全体の意識向上を図る。	B	B <ul style="list-style-type: none"> 資源ゴミの分別は定着しつつあるが、ペットボトルの分別については課題が残る。 トイレの二足制については生徒の意識も向上しつつある。 保健部と学年部が連携して、個々の生徒への対応を丁寧に行っている。 教育相談会議、特別支援会議を開催し、課題のある生徒の理解や支援に取り組み、適切な対応を行っている。
	◇生徒の実態把握と支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○保健調査等により生徒の健康実態を把握し、関係者間の連携を密にして、課題がある生徒の対応に努める。 ○スクールカウンセラー及び地域の専門機関との連携により、課題がある生徒の対応を適切に行う。 	A	

評価領域	重点目標	具体的方策（○取組計画・◇評価指標）	評価	成果と課題
魅力ある学校づくり	◇広報活動の充実	○学校説明会等の改善を図り、Webによる広報も充実させ、本校の良さやコースの特徴を中学生や保護者にわかりやすく発信する。そのために、広報誌配布やHPの計画的な更新に努める。	A	B <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌の定期的な発行や配布、学校説明会等の実施、こまめなホームページの更新等により、中学生や保護者に対し、本校の特色や良さを発信することができた。 ・自然災害等による施設・設備の破損や故障に可能な限り迅速に対応した。 ・修学支援金や各種奨学金制度について、適切に対応した。
	◇地域に応援される学校づくり	○よりよい学習環境を整えるため、創意工夫し、施設等の改修等を進める。 ○就学支援金制度や各種奨学金制度についての保護者の認知度を深めるために、わかりやすい資料の作成と制度の周知に努める。	B	

学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・西乙訓高校を取り巻く環境の変化を整理し、その変化に対応していくための具体的方策を考える必要がある。 ・授業改善については、何のために、どのように改善するのかという具体的な方策を考える必要がある。 ・国際教育では、短期留学に参加する生徒以外にもさまざまな機会を与え、学校全体としての国際教育を推進していく必要がある。 ・広報活動ではさまざまな取組を行っているが、さらに大胆な発想を持って積極的にアピールしていく必要がある。
----------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

次年度に 向けた改善 の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用により、授業改善を図るとともに、生徒の自学自習時間を増加させる取り組みを進める。 ・部活動の活性化を図り、定着率を高めることにより、学校全体として活気ある集団を形成する。 ・広報活動をさらに充実させ、中学生や保護者に本校の良さを積極的にアピールしていく。
--------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------